

令和 7 年度島根県公立高等学校入学者選抜学力検査について

1 学力検査結果の概要

本概要は、令和 7 年 3 月 5 日に実施した学力検査における受検生の解答と得点状況を総括し、受検生の学力の傾向を示している。なお、過去の平均点や得点状況のデータも参考として掲載しているが、年度により問題の難易に差があるため、単純に経年比較することはできない。

【全般】

本検査は、中学校学習指導要領に沿って、日頃の学習で積み上げられた基礎学力を測るものであるとともに、問題作成にあたっては、知識及び技能に加えて、思考力、判断力、表現力等を問う問題を重視した。

学力検査結果全般から読み取れる学力の傾向は次のとおりである。

- ①基礎的・基本的な事項については概ね定着している。
- ②文章や図表を正確に読み取ったうえで何が問われているかを正確に把握し、複数の知識及び技能を相互に関連付けて活用する力や、適切に表現する力に課題がある。

【国語】

知識及び技能に関しては、正答率の高い問題が複数あり、基本的な知識が定着している様子がうかがえる。思考力、判断力、表現力等のうち「読むこと」では、言葉の意味や働き等に注目して文章を読解することに苦手さがみられた。「書くこと」では、目的に応じて資料を適切に引用し、提案文を書く問いを出題したが、最後まで書けていない答案が多かった。また、目的や条件に応じて書いていない答案も多く、内容の検討や記述の力が十分身に付いていないと考える。過去 2 年と比べて問題全体の無解答率は減少しており、粘り強く解答しようとする様子がうかがえる。引き続き、学びに向かう力の育成を図るとともに、論理的に考える力を身に付け、活用する力の伸長が望まれる。

【社会】

基礎的・基本的な事項を問う問題については正答率が比較的高いことから、三分野それぞれについての基礎的・基本的な知識及び技能は概ね身に付いていると考えられる。一方、異なる種類の資料を関連付けて考える問題や、考えたことを決められた字数内で表現する問題については正答率が低かった。習得した概念的知識や資料活用 of 技能を用いて、社会的事象を多面的・多角的に考察し、考えたことや判断したことを定められた条件のもとで適切に表現する力の育成が望まれる。

【数学】

基本的な知識を問う問題や、計算技能をみる問題については正答率が高く、基礎的・基本的な事項の定着がうかがえる。また、問題場面における考察の対象を捉えることや、必要な情報を読み取ることはできている。ただ、読み取った情報やそれまでの結果を、問題解決に活用していくことが十分でない様子がみられる。式や表、グラフなどを関連付けて考え、数学的表現を用いて説明することに課題がある。数学的に処理することだけでなく、過程を振り返るなどして、数学を活用して論理的に考察する力の育成が望まれる。

【理科】

知識及び技能をみる問題の正答率は高く、基礎的・基本的な事項はよく身に付いている。また、思考力、判断力、表現力等をみる問題の正答率が上昇しており、知識を日常生活と関連付ける授業や探究の過程を通じた授業の充実がうかがえる。一方、結果を分析して解釈し、表現する問題や論述する問題の正答率は低く、無解答率も高かった。科学的に探究する力を育成するために、観察、実験等の結果を既習事項と関連付けて理論に基づいて考察したり、根拠をもとに論理的に表現したりしていくことが望まれる。

【英語】

情報を正確に聞き取ったり読み取ったりする問題の正答率は概ね高かったが、場面や状況に応じたふさわしい語句や表現を使って英文を書く問題、適切な語順の英文を構成する問題の正答率はやや低かった。さらに、複数の情報を組み合わせて判断する問題、読み取った英文の要点を英語でまとめる問題、さらに聞き取ったり読み取ったりした内容をもとに自分の考えを英語で表現する問題の正答率が低かった。目的や場面、状況の設定された幅広い言語活動の中で、複数の技能を効果的に統合して活用する力の育成が望まれる。

資料 2

2 学力検査得点状況について

(1) 平均点・標準偏差

年度	令和7年度		令和6年度		令和5年度	
教科	平均点	標準偏差	平均点	標準偏差	平均点	標準偏差
国語	25.4	7.6	28.5	8.8	30.6	8.6
社会	26.9	9.4	27.4	9.6	27.9	9.0
数学	22.1	10.2	26.8	10.9	26.3	10.5
理科	25.2	9.6	25.2	9.5	29.8	11.6
英語	25.8	11.7	27.3	11.6	24.6	11.4
総得点	125.0	43.5	135.1	45.6	139.2	45.6

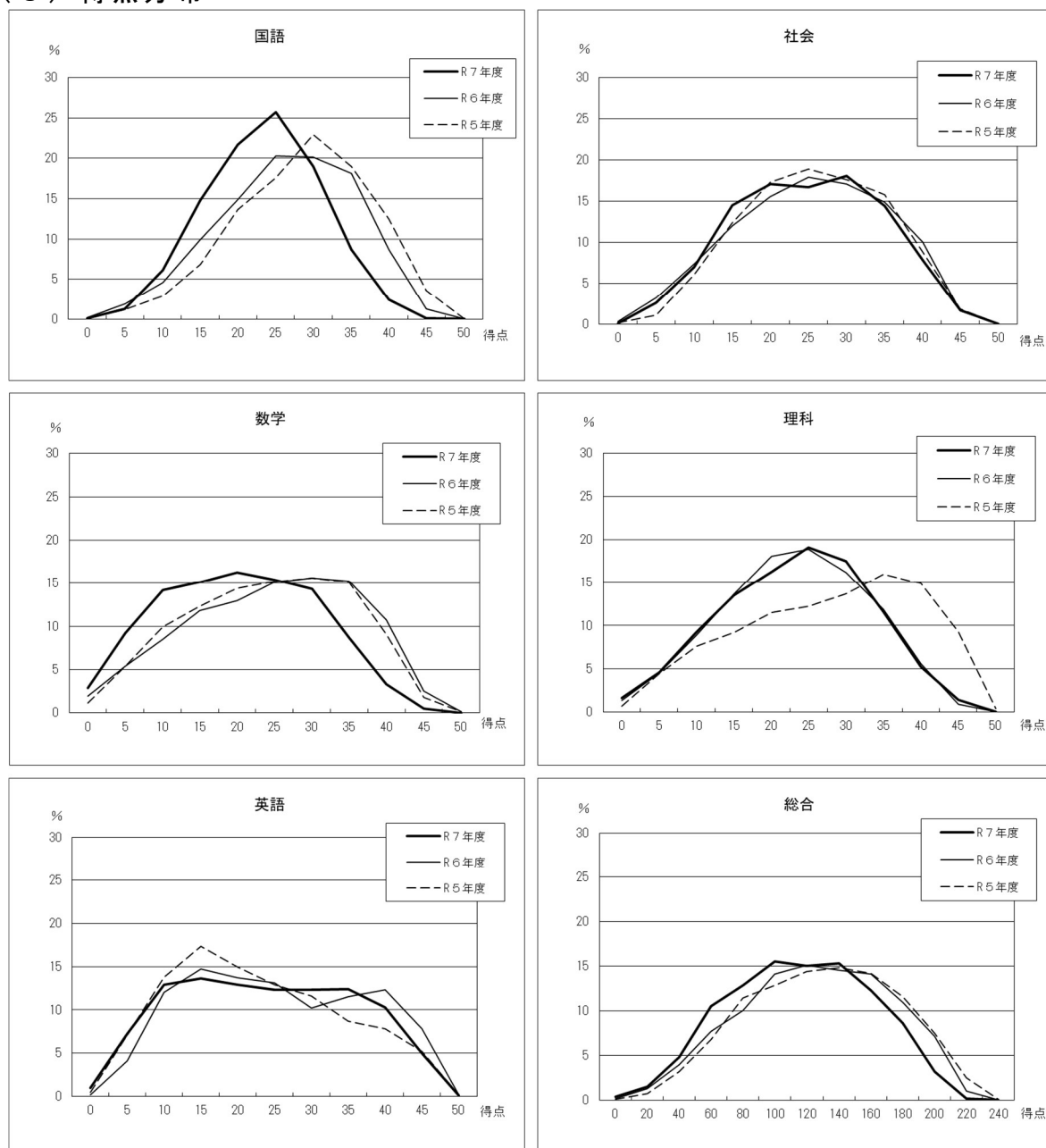
※各教科50点満点、総得点250点満点

※標準偏差…得点の散らばり具合を数値で表したもの。大きい値であれば幅広い得点分布となり、小さい値であれば平均点付近に集中した分布となる。

(2) 総得点分布

年度	令和7年度		令和6年度		令和5年度	
得点	人数	%	人数	%	人数	%
220点以上	5	0.2%	35	1.0%	98	2.6%
200～219	82	3.2%	246	7.1%	286	7.5%
180～199	223	8.6%	378	10.9%	442	11.6%
160～179	318	12.3%	486	14.1%	538	14.2%
140～159	397	15.3%	500	14.5%	563	14.8%
120～139	389	15.0%	523	15.1%	547	14.4%
100～119	401	15.5%	487	14.1%	485	12.8%
80～99	331	12.8%	346	10.0%	432	11.4%
60～79	271	10.5%	267	7.7%	258	6.8%
60未満	174	6.7%	191	5.5%	150	3.9%
計	2591		3459		3799	

(3) 得点分布



(4) 各教科を担当する教員の学力検査に対する意識調査結果

教科	校種	内容の程度			問題の分量		
		もっと下げる	ほぼ適当	もっと上げる	多い	ほぼ適当	少ない
国語	中学校	23.3%	75.6%	1.2%	34.9%	65.1%	0.0%
	高校	22.9%	77.1%	0.0%	54.3%	45.7%	0.0%
社会	中学校	1.2%	93.0%	5.8%	5.8%	91.9%	2.3%
	高校	0.0%	100.0%	0.0%	2.9%	97.1%	0.0%
数学	中学校	3.5%	90.7%	5.8%	9.3%	90.7%	0.0%
	高校	2.9%	97.1%	0.0%	8.6%	91.4%	0.0%
理科	中学校	2.4%	94.0%	3.6%	3.6%	96.4%	0.0%
	高校	14.3%	80.0%	5.7%	2.9%	94.3%	2.9%
英語	中学校	2.3%	93.0%	4.7%	3.5%	94.2%	2.3%
	高校	2.9%	97.1%	0.0%	2.9%	94.3%	2.9%